今日のイラスト643　「イラストでたどる石州街道㉑ 渡川城跡 」 古谷眞之助

イラストでたどる石州街道 21

渡川城跡

渡川城は、宇部の霜降城、周南の若山城とともに大内氏の三大古城の一つである。築城時期は「地下上申」に「永正より天文の頃、尼子勢に対する備えとして築き置かれし由」とあり、16世紀前半と考えられている。城は石州街道の要衝であるモミノ木峠から続く標高352㍍の山頂にあり、城を取り巻くように蛇行して流れる阿武川側は断崖絶壁を為していて天然の要害となっていた。

この城をめぐっては数次にわたる激戦が繰り広げられており、陶晴賢の傀儡当主大内義長が津和野の吉見氏と戦った時にも、ここを本陣としていた。しかし、晴賢が毛利氏に敗れ、義長も長府功山寺で自害すると、城は歴史の表舞台から消えていくのである。

文・イラスト＝古谷眞之助

今回は、今までになく単調なイラストになってしまった。何とも恥ずかしい。ちょっと気合が入らなかったのである。せめてもの変化としてディーゼル車を入れてみた。SLの方が良いに決まっているが、現在は整備のため休止中である。ネットからのパクリだが、小写真は山頂の城跡からの風景で、ここに煙を吐くSLが走っていれば、確かに絵になりそうだ。実際に街道を歩いた時は山頂には登る時間的余裕がなかったので、モミノ木峠にある千人塚を見たのみである。この塚は、記事にも書いているように、大内氏と津和野の吉見氏との戦いで命を落とした者たちの塚と伝わるものだが、塚そのものもごく小さなもので、国道沿いにあるものの、塚の場所を知っている人に教えてもらわねば確実に見落としてしまうだろう。

今、我々は城と言うと、大坂城、小倉城、萩城などの平城を思い浮かべるが、大内氏の時代の中世の城は規模的には比較にならないほど小さく、その分、県内のあちこちにあった。山口県教育委員会が刊行した『山口県中世城館遺跡総合調査報告書』によれば、県内の城館跡は439ヵ所もあるという。その大半が所謂山城だった。例えば続日本百名城にも選ばれている高嶺城の周囲には8つもの城があったそうである。多分その一つは古城ヶ岳山頂のものだろう。というわけで、渡川城にしても我々がイメージする壮麗な城のイメージとはかけ離れたもので、もちろん天守閣などなくて、土塁、曲輪と呼ばれる構造物が残っているだけである。（2023.12.24 記 ）